



RULES FOR THE FIS SKI JUMPING WORLD CUP (MEN)

FIS ワールドカップルール (男子)

EDITION 2021 / 2022

FIS スキージャンプワールドカップ男子ルール 2021/2022

- 凡例： WCJ-M = FIS ワールドカップスキージャンプ男子（フライングを含む）
COGJ-M = FIS コンチネンタルカップスキージャンプ男子
GPJ-M = FIS グランプリスキージャンプ男子

1. 大会地のカレンダー計画、エントリー、指名

1-1 FIS ワールドカップスキージャンプ

- 1.1.1 各国スキー連盟は、決められた期限内にカレンダー計画小委員 (Sub-Committee for Calendar Planning) へ WCJ 大会（個人戦及び団体戦）の申請をする権利を有する。
- 1.1.2 大会の申請は、大会の 5 年前に公式の FIS エントリー用紙で行なわれなければならない。大会の申請書には、ジャンプ台公認証の有効期限が含まれていなければならない。
- 1.1.3 複数の大会が異なる場所で行なわれる場合、大会の期日の間に最低でも 1 日の練習がとれるように日程が設定されなければならない。
- 1.1.4 各シーズン最後の WCJ 大会が WCJ ファイナルである。
WCJ ファイナルと関連して、WCJ 総合の表彰式が行なわれる。

1.2 WCJ 大会地の指名

- 1.2.1 カレンダー計画小委員会は以下を検討する。
- 有効なジャンプ台公認証を有し、ワールドカップ大会として当該ジャンプ台が適しているか。
 - 全競技時間を通じライブ放送に適した国際テレビ信号の提供を保証することを含めた選考基準により、WCJ 大会として当該組織委員会が適しているか。
- 1.2.2 この評価結果と提案日程により、カレンダー計画小委員会は今後 5 年間の暫定ワールドカップスケジュールを作る。各シーズンの最終的な WCJ カレンダーは、FIS 理事会の承認を要する。

1.3 日程の保護

- 1.3.1 同日に、WCJ 1 大会のみ開催出来る。
- 1.3.2 国際選手権（オリンピックと世界選手権）及び予め決められた 1 週末は、それぞれ当該大会の日程として保護される。すなわち、それらの日程ではワールドカップは開催されない。

1.4 中止

開催予定地が使用できない場合、当該各国スキー連盟は大会を中止すると共に、中止は競技会の遅くとも 8 日前までに行わなければならない。

- 1.5 **ワックスキャビン**
組織委員会は、使用者に対し如何なる追加費用が発生することなく、自由に使用できる必要なワックス掛けや準備用のキャビンを設置する義務がある。
2. **WCJ 大会参加権利**
- 2-1 FIS コード所有選手のみエントリーが認められる。
- 2-2 **参加が認められる選手**
- 2.2.1 **ワールドカップスキージャンプ及びスキーフライング**
- 2006 年又はそれ以前に生まれた選手 及び
 - 既に GP 又は WCJ ポイントをもっている選手
 - 昨シーズン又は現シーズン、COCJ-M ポイントを最低 1 点でも獲得した選手。
3. **WCJ 評価（点数配分）**
- 3-1 **個人戦**
- | | |
|-------------|-------------|
| 1 位 = 100 点 | 16 位 = 15 点 |
| 2 位 = 80 点 | 17 位 = 14 点 |
| 3 位 = 60 点 | 18 位 = 13 点 |
| 4 位 = 50 点 | 19 位 = 12 点 |
| 5 位 = 45 点 | 20 位 = 11 点 |
| 6 位 = 40 点 | 21 位 = 10 点 |
| 7 位 = 36 点 | 22 位 = 9 点 |
| 8 位 = 32 点 | 23 位 = 8 点 |
| 9 位 = 29 点 | 24 位 = 7 点 |
| 10 位 = 26 点 | 25 位 = 6 点 |
| 11 位 = 24 点 | 26 位 = 5 点 |
| 12 位 = 22 点 | 27 位 = 4 点 |
| 13 位 = 20 点 | 28 位 = 3 点 |
| 14 位 = 18 点 | 29 位 = 2 点 |
| 15 位 = 16 点 | 30 位 = 1 点 |
- 3.1.1 同得点者が複数の場合、各選手にはその順位に応じるポイントが与えられる。
(次の順位は省略される。)
- 3.1.2 WCJ 評価（ポイント対象）の大会とみなされる為には、最低 8 カ国が参加しなければならない。
- 3.1.3 **ワールドカップスタンディング**
現シーズンの全ての個人戦の WCJ ポイントが、WCJ 総合優勝者を決めるにあたり合計される。
最終評価で複数が同得点であれば、個人優勝回数多さや、各 WC 大会の次に良いランクに準じ順位が決まる。それでも同順位であれば、スタート順は抽選となる。
- 3.1.4 その時点での WCJ 総合評価首位の選手（リーダー）には“ワールドカップリーダービブ”を与える。その選手は、そのゼッケンをもらうことが出来る。首位

の選手は、ワールドカップリーダービブを大会中、公式表彰式、及び公式練習に着用しなければならない。

3・2 団体戦及び混合チーム戦

1 位=400 点	5 位=200 点
2 位=350 点	6 位=150 点
3 位=300 点	7 位=100 点
4 位=250 点	8 位= 50 点

3.2.1 同得点チームが複数の場合、各チームには、その順位に応じるポイントが与えられる。次の順位は省略される。混合チーム戦で獲得したポイントは男女間で2等分される。

3.2.2 WCJ ネーションズカップ（ポイント対象）の大会とみなされる為には、最低8カ国が参加しなければならない。

3.2.3 団体戦のスタート順

スタート順は、現在のワールドカップネーションズスタンディングの逆順に基づく。混合チーム戦のスタート順は、現在のワールドカップネーションズスタンディング男女合計の逆順に基づく。組織的理由により、同日に行われた個人戦の結果は団体戦のスタート順に考慮されない。

3.2.3.1 2本目には、1本目の上位8カ国のみ参加する権利を有する。最終ラウンドの最終グループのスタート前に、インフォブレイクを入れ、最終グループのスタート順をその時点の順位の逆順に並べ替える。

3.2.4 WCJ ネーションカップ

団体戦及び混合チーム戦シェア分のポイントを含め、現シーズンの全 WCJ 大会（男子）における1カ国より選手全員のポイントの合計点数が国別の得点（WCJ 評価）として考慮される。

国別得点で同得点がある場合、各々の大会（個人戦及び団体戦）の良い成績が優先する。

4. ワールドカップ競技会

4・1 各国の参加人数

参加人数は、ピリオド別に以下に従い計算される。

- ワールドランキングリスト（第4.1.1条参照）
- 現在のコンチネンタルカップ男子ピリオドのスタンディング

計算の基本は以下の通りである。

- ワールドランキングリストに基づくワールドカップアロケーションリスト（4.1.2条参照）の上位50選手（1カ国最大6名）
- コンチネンタルカップ男子ピリオド上位3名
- しかしながら、1カ国のクォータは最高7選手に制限する。
- （ランキングリストによる）ネーションクォータとは別に、昨年又は現シーズ

ン中に個人又は団体戦で最低1点でも獲得したことがある国は、少なくとも2×7ピリオドの間1+2の基本クォータをもつ。これは、サマーグランプリで得た得点も有効である。

4.1.1 FIS ワールドランキングリスト

クォータの計算は、以下の基準に従って作られるワールドランキングリストを基に行われる。

- ポイントシステムは、ワールドカップランキング(1位100点、30位1点)と同じである。
- 昨シーズンのワールドカップにおける5つのピリオドの競技結果は、現シーズンの5つのピリオドの結果で徐々に代わっていく。
- この更新手順が各ピリオド終了後に繰り返し行なわれ、最近の5つのピリオドがワールドランキングリストの計算に使用される。
- さらに、サマーグランプリ(2つのピリオド)の競技結果がネーションクォータの計算に加わる。
- ネーションクォータはそのピリオド内に有効であり、現在の大会結果に影響されない。

4.1.1.2 ワールドカップアロケーションリスト

旅費の支払いは、以下の基準に従って作られるワールドカップアロケーションリストを基に行われる。

- ワールドカップランキングリストに基づくワールドカップアロケーションリストの上位50選手がこのクォータに考慮される。
- コンチネンタルカップ男子ピリオドの上位3名

このアロケーション(配分)はワールドランキングリストのスタンディングトップから順々に下位の選手一人にクォータ1枠を割り当てる。ある国が最大クォータ6枠を獲得したら、当該国の残りの選手はカウントされず、総計50人に達するまでワールドランキングリストで次に資格のある選手の国に枠が配分される。最後の配分クォータ枠が複数の場合、当該順位の全ての選手が次のピリオドに含まれる。

4.1.2 ピリオドの区分け

2021/2022 FIS グランプリ及びワールドカップカレンダーは以下の7つのピリオドに分ける。地理的及び組織力から判断された。

第1ピリオド: 2021.07.17 - 2021.08.29 (ウイスイ〜ケーシュベル)

第 2 ピリオド:	2021.09.04	-	2021.10.03	(シュチンスク〜クリゲンタール)
第 3 ピリオド:	2021.11.20	-	2021.12.19	(ニジニタギル〜エンゲルベルグ)
第 4 ピリオド:	2021.12.29	-	2022.01.09	(オーベルストドルフ〜ビショフホーヘン)
第 5 ピリオド:	2022.01.15	-	2022.01.30	(ザコパネ〜ヴァイリゲン)
第 6 ピリオド:	2022.02.04	-	2022.03.13	(ラハティ〜オスロ)
第 7 ピリオド:	2022.03.19	-	2022.03.27	(オーベルストドルフ〜プラニツァ)

4.1.3 公式練習の参加枠（スタートクォータ）

各スキー連盟は、ネーションクォータに沿った選手数をエントリーする権利を有する。但し、合計 7 名を超えてはならない。

クォータが 1、2 の国は、選手 2 名を追加してエントリーすることを認める。クォータが 3 の国は、選手 1 名を追加してエントリーすることを認める。

クォータが一つもない国又は基本クォータの国（4.1 条参照）は、最大選手 2 名までエントリーすることを認める。

ホスト国は、公式練習及び予選にナショナルグループ（グループ 1）を最大 6 名まで加えてエントリーする権利を有する。

しかしながら、大会プログラムに団体戦が含まれる場合、個人戦に最大選手 4 名までエントリーすることを認める。

ホスト国の最大参加クォータは、公式練習及び予選において 13 名であるが、その他の国は最大 7 名とする。

WCJ 大会が 1 カ国で 2 試合を越える場合、ホスト国は、最大 2 試合にのみナショナルグループをエントリーする権利を有する（WCJ 大会のみ適用）。

サマーグランプリにおいては 1 試合に減らす。この制限は、他国からの代替大会には適用されない。

4.1.4 大会（本戦）スタートクォータ 予選ラウンドで参加選手を 50 名に減らす。スキーフライング大会では 40 名に減らす。

4.1.5 トゥービート及びグリーンレーザーライン

男子 WCJ 大会（個人、団体、予選、プロローグ）では、公式データサービスプロバイダーの”トゥービート及びグリーンレーザーライン”の使用を義務とする。

4-2 競技方法とスタート順

4.2.1 ワールドカップ競技会

原則として、ジャンプ大会は以下から成る。

- 公式練習
- 予選及び／又は
- 試技
- 2 ラウンド

- 4.2.1.1 公式練習、予選、1本目では、選手を3つのグループに分ける。
グループの順序は以下の通りである。
- グループ1 ホスト国
 - グループ2 (WCJポイントがない選手)
 - グループ3 (WCJポイントをもつ選手)
- 4.2.1.2 グループ内のスタート順は、以下の通りに決める。
- グループ1 ホスト国によるドロー又はシード
 - グループ2 ドロー
 - グループ3 現在のWCJランキングの逆順。シーズン最初のWCJ大会は、昨シーズン最終WCJラインキングが決め手となる。
スキーフライングの場合、フライングWC第2戦目からは、現在のフライングWCスタンディングが決め手となる。
選手は、ワールドカップスタンディングに入れば直ちに、そのランキングに従ってグループ3にシードされる。

シードグループ1及び2が揃った後、ジュリーは公式練習前にこれをドローすることが出来る。チームキャプテンは、このドローを次回のチームキャプテン会議で確認しなければならない。

同じジャンプ台で行なわれる2つの試合において、公式練習が1回しか出来ない場合(個人及び団体戦又は個人戦2戦)、一方もしくは両方の大会に参加するとしても、どちらか1試合分のクォータしか参加出来ない。

競技スケジュールは、大会の招待状といっしょに発表されなければならない。不可抗力の場合、ジュリーによって変更が可能である。

4.2.1.3 予選

4.2.1.3.1 予選 スキージャンプ

予選ラウンドで参加者数を50人まで減らす。全ての選手が、予選に参加しなければならない。結果は、総合点数で計算される。

最長不倒の95%に達し予選通過すべきところ転倒した選手は、50人に加えて大会に参加する権利を持つ(ウインド/ゲート補正が使用される場合、補正された距離が基本となる)。参加選手数が50人未満の場合、プロローグ競技ラウンドを開催しなければならない。

4.2.1.3.2 予選 スキーフライング

予選ラウンドで参加者数を40人まで減らす。全ての選手が、予選に参加しなければならない。結果は、総合点数で計算される。

ホスト国が上記40人内に4選手未満またはそれを超える場合1本目に4人まで追加してエントリーする権利を有する。

最長不倒の95%に達し予選通過すべきところ転倒した選手は、40人に加えて大会に参加する権利を持つ(ウインド/ゲート補正が使用される場合、補正された距離が基本となる)。

4.2.1.3.3 予選不通過選手

予選不通過選手を、同週末の大会/イベント/開催地で予定されるシリーズの別の個人戦のフオージャンパーとして指名することは出来ない。ただし、例外的な場合においてジュリーは予選不通過選手をフオージャンパーに指名することが認められる。

4.2.1.4 特別な場合（例：限られた練習、インランの変更、時間不足、悪天候）、ジュリーは予選又は試技の決定をすることが出来る。

4.2.1.6 試技

予選を全く行なわない場合又は大会当日に行なわない場合、試技を 1 本目の前に行なわなければならない。（例外：ICR452.2.2 参照）

4.2.1.7 1 本目には 50 人（スキーフライングは 40 人）のみ進める。予選ラウンドで最後に予選通過した順位が複数の場合、その同点者全員が本選に進める。合計人数を 50 人（フライングは 40 人）まで満たす。（プラス最終予選通過順位同点者全員又は/及び最長不倒の 95%に達したが転倒した選手。第 4.2.1.3 条に従う）

4.2.1.8 2 本目（最終ラウンド）には、1 本目の上位 30 人のみが進める（プラス最終予選通過順位同点者全員）。ゼッケンは替えず、1 本目の成績の逆順でスタートする。

4.2.1.9 1 本目で最長不倒の 95%に達し通過すべきところ転倒した選手は、上位 30 人に加え 2 本目に参加出来る権利をもつ（ウインド/ゲート補正が使用される場合、補正された距離が基本となる）。

4.2.1.10 2 本目は、1 本目終了後 15 分以内で始めなければならない。時間通りにスタート出来ない選手は失格となる。

4.2.1.11 予選ラウンド終了後、ジュリーは予選不通過選手に対し、必要ならば、大会の出走者として使うことを認める権限を与られている。

4.2.1.12 ワールドカップファイナル

ワールドカップシーズンのファイナル（NH, LH, FH）において、その場に居る現在のワールドカップ総合スタンディング上位 30 人のみが個人最終戦に参加できる。ホスト国の選手が 30 人以内に 4 人未満ならば、4 人までエントリーを追加できる権利を有する。

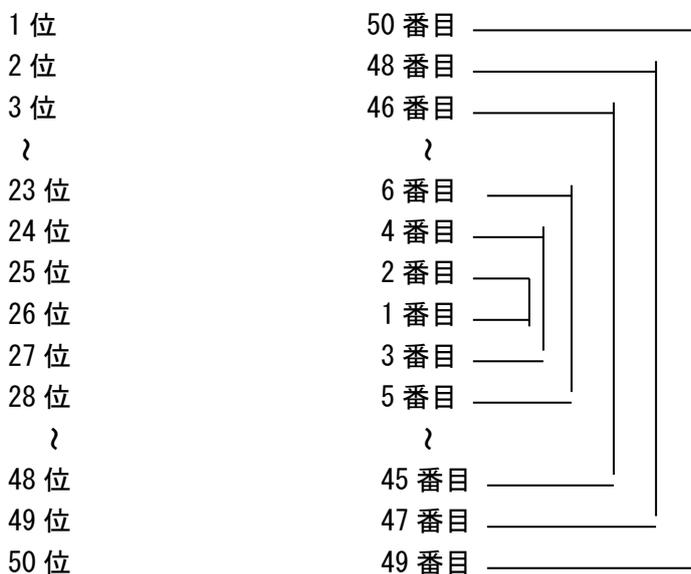
4.2.2 K0 システム

ジャンプ委員会は、予選及び競技ラウンドに関する上記のルールを修正する権利を有する。

新しい方法に対し FIS ジャンプ委員会による決定と FIS 理事会の承認により、1 本目の参加者数は、ペアで（二人ずつ）競うことにより（K0 システム）、最終ラウンドを半分の 25 人に減らす。合計点数でトップより上位 5 人（ベストルーザー）を加え、合計 30 名まで満たす。

- 4.2.2.1 予選ラウンドは今迄と同じ方法で行なわれるが、1 つ例外があり、合計点数によって予選通過確定のみならずスタート順も決まる。
予選ラウンドは、如何なる場合も一日前に行なわなければならない。もしこれが保証されなければこの K0 方法を使用しない。
- 4.2.2.2 1 本目において 25 組が競うので、予選ラウンドでは、きっかり 50 人を選出しなければならない。
そのため、最下位が同点で複数の場合、又は最長不倒に達したが転倒のため合計点数が低くすぎた場合、50 人より増やすことは不可能である。公平さを遵守しかつ明確な決定を確実にするため、以下のルールが適用される。
- 4.2.2.2.1 二人もしくはそれ以上の選手が予選で同得点ならば、スタートナンバーの遅い選手が良いポジションにランクされる。(ICR 第 433. 4 条参照)
- 4.2.2.3 これらのルールに基づき、以下のシステムが予選ラウンドのランキングに適用される。
合計点数に基づき、まず 1 位から 50 位の通常のランキングを出す。
- 4.2.2.4 1 本目においてペアは以下のように決める。

予選ラウンドの順位 = 1 本目のスタート順位
がスタートナンバーとなる。



- 4.2.2.5 ペアは以下の順番で始める。
- | | | | | |
|----------|------|---|------|-------|
| スタートナンバー | 26 番 | 対 | 25 番 | 1 組目 |
| | 27 番 | 対 | 24 番 | 2 組目 |
| | ⋮ | | ⋮ | ⋮ |
| | 49 番 | 対 | 2 番 | 24 組目 |
| | 50 番 | 対 | 1 番 | 25 組目 |

- 4.2.2.6 ペアが対決した結果、対戦相手より点数の良かった選手が2本目に進める。ペア同志が同じ点数ならば、スタートナンバーの低い方が次に進める。
- 4.2.2.7 ノックアウトシステムで残った25名が2本目にすすめる。さらに、敗北者の中から合計点数で上位5名（ベストルーザー）が2本目に加わる。例外的に勝者の数が満たない場合、ベストルーザーの数が増える。2本目の参加人数は最終予選通過順位同点者全員又は/及び最長不倒の95%に達したが転倒した選手（第4.2.1.3条に従う）により増加する（ウインド/ゲート補正が使用される場合、補正された距離が基本となる）。
- 4.2.2.8 2本目のスタート順位は1本目の合計点数の逆順による。同順位の場合、スタートナンバーの遅い方が先に飛ぶ。競技の総合得点は、2つの競技ラウンドの合計点数で決める。

4.2.3 スキーフライング競技会

フライングワールドカップ競技会は、ジャンプワールドカップルール及びICR454条に従って行なわれなければならない。

- 4.3 競技会に関し、ジュリーの決定について現在の適確な情報がメディア及びテレビ代表者、観客に伝わる事を保証する為、ジュリーは状況をメディア代表者及びアナウンサーに伝える義務がある。FIS レースディレクターは、その任務を担っている。
- 4.4 全ワールドカップ競技会において、FIS ジャンプ委員会が決めた特別規則に従い、ビデオ飛距離測定の使用を義務とする。

5. WCJ 賞

5.1 賞金

組織委員会は、1 競技会につきスイスフラン (CHF) で最低でも下記の賞金額を用意しなければならない。

個人一戦: CHF 71,800 上位 30 選手で以下の通りに配分:
獲得したワールドカップポイント 1 点ごとに 100 スイスフラン:

1 位 CHF 10,000	10 位 CHF 2,600
2 位 CHF 8,000	20 位 CHF 1,000
3 位 CHF 6,000	30 位 CHF 100

予選:

トップ選手 CHF 3,000
フライングトップ選手 CHF 5,000

団体戦及び混合チーム戦: CHF 70,000 上位 3 チームで配分:

1 位 CHF 30,000
2 位 CHF 22,000
3 位 CHF 18,000

支払は、地元の税法を考慮しつつ、最終試合日または銀行情報の受領後から遅くても7日以内に各選手の銀行口座に電子送金で行われなければならない。選手の口座の通貨への変換に関し、送金時の実際の銀行レートが適用される。

最終試合日または銀行情報の受領から 31 日目以降、選手個人への各遅延支払に対し、一括遅延損害金として 999 スイスフランが組織委員会(LOC)に課される。しかし、選手が提供する銀行情報の不足や間違いによる遅延は除く。また、個人の TIN(納税者番号)等を必要とする特殊規則による遅延も除く。

NSA は FIS メンバーセクションの選手登録システムを使用し各選手の個人銀行情報を入力する責任を有する。銀行情報の LOC への提出日は、LOC が支払を済ます上記最終期限内有効とする。

各会場の最終試合日から遅くても 3 日以内に、領収書を選手へ電子的に提供しなければならない、また、そのコピーを FIS へ送る必要がある。地元の銀行に請求される銀行送金手数料やそれに適用される VAT(付加価値税)は LOC が負担しなければならない。受け手の銀行が徴収する手数料に対する税金を含む銀行手数料は選手の費用とする。銀行情報の不正確な申告によっておこる補足の費用は、支払われる金額の総額(各賞金額)に対し LOC により請求される。

現地法が求める源泉徴収税を LOC は賞金から差し引くことが出来る。当該金額の情報は選手に送信される領収書に明記されなければならない。選手は、適用される源泉徴収/所得税の責任を有する。

LOC は、源泉徴収される税金の証明だけに限らず、試合が開催された国の賞金で税金問題をかかえる選手をアシストしなければならない。

5.2 FIS ワールドカップトロフィー

- (全てのワールドカップフライング個人戦及びジャンプ個人戦を含む) ワールドカップ総合優勝者には、ビッグワールドカップトロフィーが与えられる。このトロフィーは FIS が用意する。
- (フライング大会全個人戦を含む) ワールドカップスキーフライング総合優勝者には、スモールワールドカップトロフィーが与えられる。このトロフィーは FIS が用意する。(* 訳注 フライング種目別優勝者のこと)

5.3 FIS ワールドカップメダル

- ワールドカップスキージャンプ上位 3 選手に、FIS ワールドカップメダルが与えられる。
- ワールドカップスキーフライング上位 3 選手に、FIS ワールドカップメダルが与えられる。

5.4 FIS ネーションズカップトロフィー (国別対抗)

優勝チームには、FIS ネーションズトロフィーが与えられる。

5.5 賞の用意

上記のトロフィーおよびメダルは、FIS が用意する。

5.6 プレゼンテーション

総合優勝者の表彰式は、ワールドカップファイナル（最終戦）で行なう。

6. 費用の支払い

6.1 費用負担を受けるネーションクォータ

参加国のネーションクォータは以下のように決められる。

ワールドカップアロケーションリストは、サマーグランプリ及びワールドカップジャンプ大会の結果を基に作られる（4.1条参照）。

7つのピリオドの終了度に計算し直され、このワールドカップアロケーションリストから以下が含まれる。

- ワールドカップアロケーションリストランキングリスト 上位 50 選手（1カ国最大 6 名）
- 現在のコンチネンタルカップ男子ピリオド上位 3 名
- 基本クォータ
- 各スキー連盟は、最大 7 名までの費用負担を受ける権利がある。
- 負担しなければならない役員の数、下記基準に従って決まる。

役員クォータ：

選手 1～3 名	役員 2 名
選手 4～5 名	役員 3 名
選手 6～7 名	役員 4 名

- 6.2 以下の費用は、各スキー連盟への費用支払いに関する項目 6.1 条で決められたクォータに従って、チームに支払われなければならない。

6.2.1 宿泊

大会期間中、最初の公式練習の前日から最終競技日の翌日まで、開催地の上質のホテルで部屋と 3 食を提供する。招待状及びインフォメーションパックは、組織委員会から各スキー連盟に送られなければならない。参加チームは、表記された期限までに参加選手をエントリーしなければならない。それによりチームは各自予約した部屋数を確保する。

予約した部屋を使用しなかった場合、組織委員会は、そのスキー連盟に対しキャンセル料金を要求する権利をもつ（ただし、クォータの変更で選手数が減った場合は除く）。

該当する国への旅費の支払いがある場合、組織委員会はその負担する旅費から直接キャンセル料を徴収する権利を有する。

組織委員会又はホテルマネージャーは、チームキャプテンの同意なしに、大会日に部屋を明け渡すことを要求することは、認められない。スタートクォータが 4 人以上の国に対し、シングル 2 部屋を提供しなければならない。

クォータ（定数）に含まれない選手・役員について、組織委員会は、食事付き宿泊を、通常の現地価格の最低 25%引き料金、上限 125 スイスフランで提供しなければならない。

大会プログラムに団体戦が含まれる場合、全ての参加国は選手4人までエントリーが認められる。費用払い戻しクォータシステムで選手が4人未満のチームに対し、追加クォータ選手（4人まで）の宿泊及び追加となった2枠の旅費は大会の全期間中（週末及びトーナメント）オーガナイザーが支払わなければならない。

6.2.2 旅費

組織委員会は、FISの地域別旅費規定に従い、スイスフランを基準に1人につき以下の最低旅費負担分を支払わなければならない。

1. Aグループの組織委員会は、以下の通り支払わなければならない。

- A グループの国のクォータに対し、250 スイスフラン
- B グループの国のクォータに対し、400 スイスフラン
- C グループの国のクォータに対し、400 スイスフラン
- D グループの国のクォータに対し、600 スイスフラン
- E グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン

2. Bグループの組織委員会は、以下の通り支払わなければならない。

- A グループの国のクォータに対し、400 スイスフラン
- B グループの国のクォータに対し、250 スイスフラン
- C グループの国のクォータに対し、400 スイスフラン
- D グループの国のクォータに対し、600 スイスフラン
- E グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン

3. Cグループの組織委員会は、以下の通り支払わなければならない。

- A グループの国のクォータに対し、400 スイスフラン
- B グループの国のクォータに対し、400 スイスフラン
- C グループの国のクォータに対し、250 スイスフラン
- D グループの国のクォータに対し、600 スイスフラン
- E グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン

4. Dグループの組織委員会は、以下の通り支払わなければならない。

- A グループの国のクォータに対し、600 スイスフラン
- B グループの国のクォータに対し、600 スイスフラン
- C グループの国のクォータに対し、600 スイスフラン
- D グループの国のクォータに対し、250 スイスフラン
- E グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン

5. Eグループの組織委員会は、以下の通り支払わなければならない。

- A グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン
- B グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン
- C グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン
- D グループの国のクォータに対し、700 スイスフラン
- E グループの国のクォータに対し、250 スイスフラン

6.2.2.1 FIS加盟国は、以下の通り5つの旅行、組織別地域に分けられる。

第1地域	北ヨーロッパ (DAN, EST, FIN, ISL, NOR, SWE)	A グループ
第2地域	東ヨーロッパ (BLR, BUL, GEO, LAT, LTU, RUM, RUS, UKR, UZB)	B グループ
第3地域	中央・南ヨーロッパ (AND, AUT, BEL, BIH, CRO, CZE, FRA, GER, GBR, GRE, HUN, IRE, ITA, LIE, LUX, MON, NED, POL, RSM, SPA, SVK, SLO, SUI, TUR)	C グループ
第4地域	オーバーシー1 (ALG, CAN, EGY, IRA, ISR, LIB, MAR, MEX, RSA, SEN, SUD, SWZ, USA, ZIM)	D グループ
第5地域	オーバーシー2 (ARG, AUS, BRA, CHI, CHN, FIJ, GUA, HON, KAZ, JPN, KOR, PRK, MGL, NZE, PHI, PUR, URU, ISV)	E グループ

6.2.2.2 単独又は（協定を結んだ）複数の組織委員会は、チャーター便（飛行機、電車、バス、船）を用意し、請求することが出来る。これは、プログラム又は招待状に明記されていなければならない。チームは、公式エントリー最終期限内に組織委員会へ返事をしなければならない。バスでの移動は 400 km に制限する。

6.2.2.3 各連盟が、組織委員会にチームの人数、到着日、到着時間、フライトナンバーを伝える限り、空港との往復移動は、組織委員会が用意し、負担する。

6.2.3 指名された TD、アシスタントレースディレクター、アシスタント TD、及び飛型審判は、ICR405.4 条に従って支払われなければならない。

7. FIS WCJ タイトルスポンサー/広告/メディアサービス

7.1 FIS は、公式 FIS ワールドカップタイトル又はプレゼンティングスポンサー又は代理店との間で契約書に署名をする。

7.2 全関係者が厳密に遵守しなければならない全ての広告事項は、FIS と各加盟スキー連盟／組織委員会との間で結ばれた契約書” FIS ワールドカップオーガナイザー契約 “に明記されている。

7.3 PR インフォメーション、メディアサービス、入賞記者会見等の一般サービスに関し、組織委員会の報道係長（チーフオブプレス）を、FIS が指名する FIS ワールドカップメディアコーディネーターがサポートする。
組織委員会は、コーディネーターの旅費、宿泊、食事を負担しなければならない。事前にコーディネーターは、手配について組織委員会と連絡をとらなければならない。

7.4 国際スキージャーナリスト連盟（AIPS）及び FIS の推奨とガイドラインに従って、プレス/メディアサービスを組織し、かつ実施しなければならない。

8. 救助活動－医療支援要件

主催者は、適切な救助活動を組織し、全競技時間（トレーニング及び競技会）の間稼働する責任を負う。FIS 大会主催者向け医療支援に関する要件は（メディカルルール及びガイドラインを含む）FIS メディカルガイド第 1 章及び ICR221.6 条に記載されている。

9. WCJ レポート

FIS TD は、WCJ 大会の報告に責任がある。TD および TD アシスタントのオンラインレポートは大会後 5 日以内になされなければならない。

10. FIS グランプリスキージャンプ

WCJ ルールがグランプリ大会に適用される。但し、6.2.2 条を例外とする（ポケットマネーなし）。及び

10.1 賞金

個人一戦： CHF 12,000（上位 6 選手で配分）
団体戦： CHF 12,000（上位 3 チームで配分）
混合チーム戦（男女）： CHF 10,000（上位 3 チームで配分）

（賞金の分配手順は第 5.1 条に従う）

10.2 FIS グランプリトロフィー

グランプリ上位 3 選手には、FIS グランプリトロフィーが与えられる。
このトロフィーは FIS が用意する。FIS グランプリトロフィーを与えるためには最低 3 試合を完了しなければならない。